

第4期米沢市工業振興計画(令和8年度～令和12年度)概要(案)

基本目標『地域の稼ぐ力の向上による好循環なものづくり産業の実現』

本市の特色

- ◆裾野の広い産業基盤 ◆山形大学は最先端技術シーズを多数保有
- ◆県内トップクラスの製造品出荷額等(令和5年県内2位、東北管内10位)

社会経済の潮流

- ◆人口減少・少子高齢化の進行 ◆AI・デジタル技術の普及
- ◆賃金の上昇 ◆物価の高騰 ◆円安の進行 ◆不安定な国際情勢

現状の分析

本市の課題と施策の方向性

- ① 次世代を担う産業人材の育成及び定着の促進
- ② 高付加価値なものづくりの推進による地域産業の収益性の向上
- ③ 産学連携による企業の持続可能性と成長性の向上
- ④ 新たな産業団地の整備と成長分野の企業の立地促進

課題解決に向けた検討

基本戦略・具体的施策

※ 太枠表示の施策は「重点施策」として、より重点的に取り組むものを表しています。

基本戦略1 新時代を見据えた産業人材の確保と育成の強化

施策1 ものづくり人材の育成及び定着の促進

新たな取組：米沢商工会議所新会館内(仮称)米沢地域産業振興センターを拠点に実施する産業人材育成事業、県立米沢鶴城高等学校地域コンソーシアム等による新規卒者の地元定着促進事業

基本戦略2 企業の経営基盤強化による地域競争力の向上

- 施策2 先端技術の活用促進、
- 施策3 企業競争力強化に向けた技術力及び収益性の向上に対する支援、
- 施策4 企業間連携・ネットワーク強化に対する支援、
- 施策5 販路開拓・取引拡大に向けた企業支援

新たな取組：山形大学や産業技術総合研究所との連携により実施するBIL(ブリッジ・イノベーション・ラボラトリ)を契機とした地域企業の技術力・研究開発力向上

基本戦略3 ものづくりを牽引する新たな産業基盤の構築

- 施策6 新たな産業団地の整備推進、
- 施策7 波及効果が高く成長が見込まれる産業の立地促進

新たな取組：新産業団地の米沢北インターチェンジ周辺への整備及び成長産業の誘致に向けた取組の推進

産学官金の連携による推進

「稼ぐ力」(人材・技術・企業)の強化とその相乗効果により、産業の高付加価値化と市民所得の向上を実現し、市民が安定して働き続けることができる「ものづくりのまち米沢」を創造する

数値目標

製造業付加価値額：1,650億円(令和12年度)
従業員1人当たり付加価値額：1,650万円(令和12年度)